



 <授業の内容とねらい>

キリスト教教育とは何でしょうか。ある人は、キリスト教にとって重要な教義や伝統を伝えることがキリスト教教育であると言います。しかしもしそうであるなら、教義や伝統を学びたい人が、それらについて書かれた本を図書館で借りて読めば教育は終了となります。キリスト教教育の専門家であるロバート・パズミーニョは、キリスト教教育について次のように述べています。「教育とは、日々の生活の場面や霊的な場面において、その人の知識、信条、価値、態度、感情、スキル、行動が変化するプロセスである。」つまりキリスト教にとって重要な教義や伝統は、それを知り記憶するだけでなく、その人の中に重大な変化となって現れて、はじめてそれが教育となるのです。キリスト教教育Ⅰでは、これらのことを念頭に置きつつ、旧・新約聖書時代から近代、現代までのキリスト教教育の歴史を振り返ります。また一般の教育学で取り扱う学びの内容と、キリスト教教育の関連性を考慮しつつ、動機付け、カリキュラム・デベロップメント、パーソナリティ、集団心理、自己評価、他者評価、といったトピックについての理解を深めます。

 <授業テーマと内容>

- 第1週 キリスト教教育の聖書的基盤
- 第2週 キリスト教教育の歴史と背景
- 第3週 キリスト教教育と神学
- 第4週 キリスト教教育と発達
- 第5週 <特講>アクティブラーニングとは？
- 第6週 映画鑑賞「ハクソーリッジ (Hacksaw Ridge)」
- 第7週 キリスト教教育の学習と動機付け
- 第8週 キリスト教教育の学習方法とカリキュラム
- 第9週 キリスト教教育の自己評価と他者評価
- 第10週 キリスト教教育の自己概念と集団心理

 <到達目標>

- ① 聖書に基づくキリスト教教育のあり方について説明できるようになること
- ② キリスト教教育の歴史について説明できるようになること
- ③ 教育心理学のアプローチを、キリスト教教育の実践において用いることができるようになること

 <DPとの関連>

 <授業方法>

 <(*)教科書・参考書>

「楽しく学べる教育心理学」桜井茂男著（図書文化社、2017年）

 <成績評価の方法と基準>

授業参加度 20 %

リフレクション 30 %

小テスト 50 %

*出欠席に関するポリシー：無断欠席は1回につき、最終の100点満点の素点から10ポイントが引かれます。

 <準備学習等に必要な時間>

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約1.5倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は140分ですので、クラス外で毎週約210分の学習時間を確保して下さい。

 <課題（試験やレポート）に対するフィードバック>

課題や質問に関しては、復習を兼ねて次回の授業で扱います。

 <その他履修上の注意点>

このクラスはユースミニストリー副専攻の必修科目です。